福井の浅海の自然

福井市　夏梅晃一

「楽しみは、夏の海に日（陽）が光り、一人魚と戯れる時」東京でサラリーマン生活をしていた頃の最大の楽しみは、山の手線浜松町駅に近い竹芝桟橋で伊豆七島に向かうフェリーに乗り、八丈・三宅・神津・式根・大島等に渡り、週末を島の海岸で過ごすこと。沖縄や北海道の離島にも出かけ、小笠原で２週間の海三昧の日を過ごし、日本海では能登輪島沖の舳倉島に渡るなど、２０才代前半は日本の離島を制覇すべく、あちこち歩き回っていたのが懐かしく思い出されます。

でも、日本各地の美しい海を訪ねるだけでは何故か満足しきれず、福井の海で潜ろうと帰福を決めたのが２５才の時。１９８６年に帰福後は、越前海岸や三方町食見・常神の海に潜り、スノーケリングの海中観察会を福井で普及。７年前からは三国海岸をフィールドと決め通い続けています。

私の三国海岸の自然との出会いは、３才の頃の祖父に連れられての海水浴。小学校の高学年～中学時代は福井の自宅から自転車で三国へ海釣りに、釣りながら見た夕陽の美しさは忘れられません。

では、福井の浅海でこれまでに見つけたトピックの一部を紹介します。

●藻場とアマモ場・・・中部日本海の最大の特徴はガラモ場（ホンダワラ類の藻場）

ホンダワラ類の種類の多さとその成長力、藻場に生息する生き物たちの多様さに驚きます。アマモ（種子植物）は岩礁に成育する種類（エビアマモ）が多い。

●ソラスズメダイ・オヤビッチャ・ツノダシ etc・・・日本海を暖流とともに北上する死滅回遊魚たち

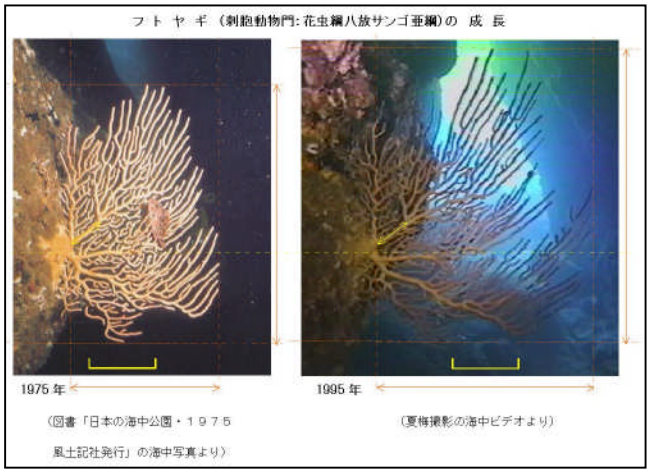
初夏に南海で孵った色鮮やかな幼魚たちが、対馬海流に流されて北上する流れ藻とともに、日本海各地の浅海に夏～初秋の頃たどり着き、海中に彩を添えます。でも、南海に帰る泳力がない幼魚たちは、晩秋からの水温の低下により死んでしまうため、死滅回遊魚と呼ばれます。

●サンゴの仲間・・・福井の浅海にもサンゴが生息

・ムツサンゴ（六放サンゴ類）：北方系の小さなサンゴで、浅海の岩肌に群生。鮮やかな黄色が美しい。

・イシサンゴ類（六放サンゴ類）：南海のサンゴ礁を形成。キクメイシモドキ等が福井の浅海に生息。

・フトヤギ（八放サンゴ類）：宝石サンゴは深い海中に生息する八放サンゴ類。フトヤギは福井の浅海にも生息。三方海中公園の常神で１９９５年に撮影したものと同じ個体の写真を、２０年前に出版された図書で発見。成長には長い時間が必要。



●多様なウミウシ（シロ・アオ・コモン・クロシタナシ etc）・・・福井の浅海にも多く色鮮やか

潜るほど新しい種類に出会えそうなくらい種類が多い軟体動物、浅海の宝石的存在。

●磯ガニ・・・２００５年から三国海岸の二の浜（赤黒２色の転石が特徴的なレキ浜）で磯ガニ調査中

二の浜海岸は磯ガニたちの絶好の生息空間。主に、アカイソガニ、ヒメアカイソガニ、イワガニ、イソガニの４種類が生息。潮間帯の転石と転石の間の空間を巧みに利用して生息。

自己紹介	①入会年	１９８７年	②関心分野	海岸～浅海域の自然
③マイフィールド	福井県坂井市の三国海岸		④好きな動植物など	「温帯の魚たちの群れ」一緒に泳ぐと時が経つのを忘れ、癒されます
⑤最も感動した自然	１９９４年９月４日に亀島の海中で出会ったソラスズメダイの幼魚の群れ。亀島の透き通った浅海中が、ソラスズメダイで真っ青に染め上げられていました。			